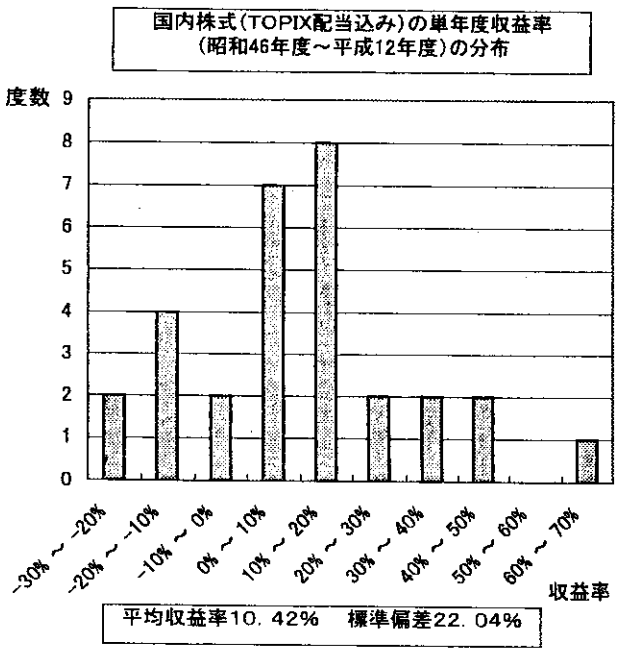
長期資金である年金積立金の運用方法（分散投資）について

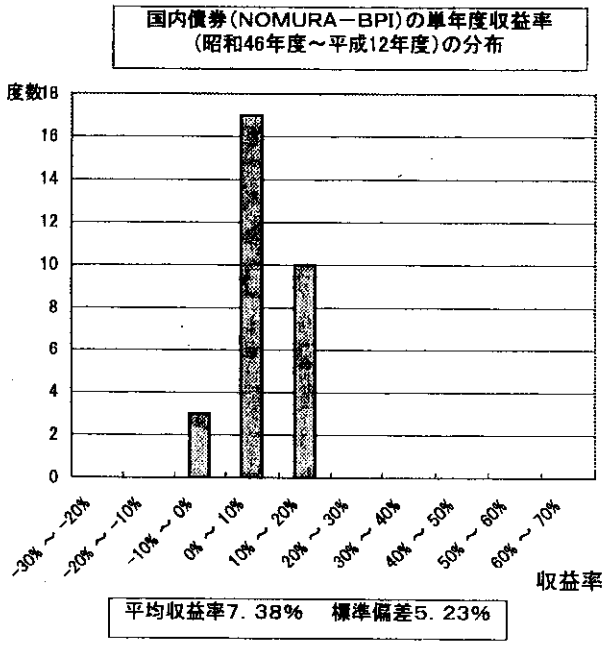
○　年金積立金は、長期運用が可能な資金であり、安全、確実かつ効率的に運用することが必要。

○　資本市場においては、一般に、「リスクとリターンはトレードオフの関係」が成立しており、安全性と有利性を両立させることは困難。（ハイリスク・ハイリターン、ローリスク・ローリターン）

例えば、株式の収益率の期待値（リターン）は大きいが、収益率の分布の上下へのぶれ（リスク）が大きい。一方、債券の収益率の期待値は、株式の収益率の期待値よりも小さいが、リスクは小さい。

〔図表１　国内株式と国内債券の収益率の分布〕





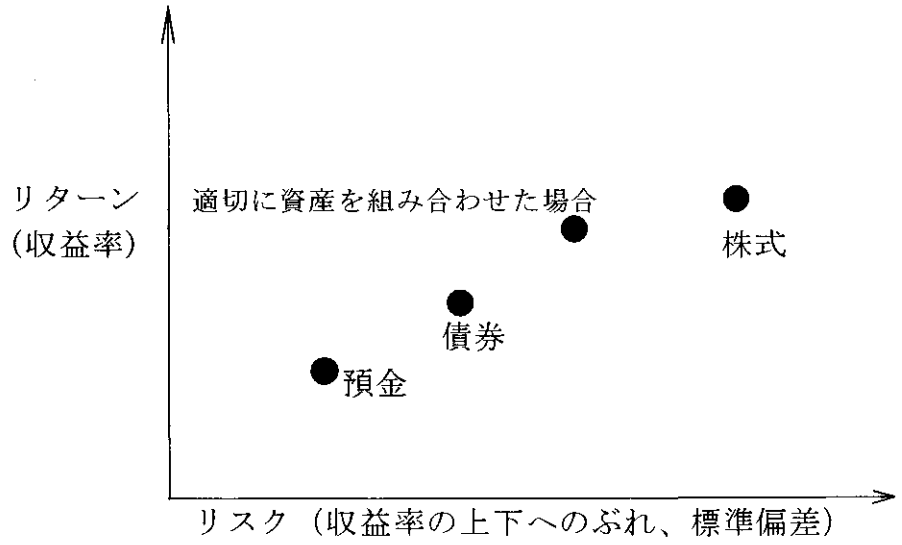
○　このような資本市場の本質を踏まえた上で、安全で、かつ有利な資産運用を行うための手法が資産運用の歴史の中で開発され、今日では、技術進歩に支えられてより高度なものへと発展した。この伝統的な手法が、「分散投資」である。

○　分散投資の考え方は、年金資金運用の基本となっているものである。この方法を用いて運用することにより、目標とする収益をあげるためのリスクを小さくすることが可能となり、適度なリスク負担の下で高い収益率を期待することができる。

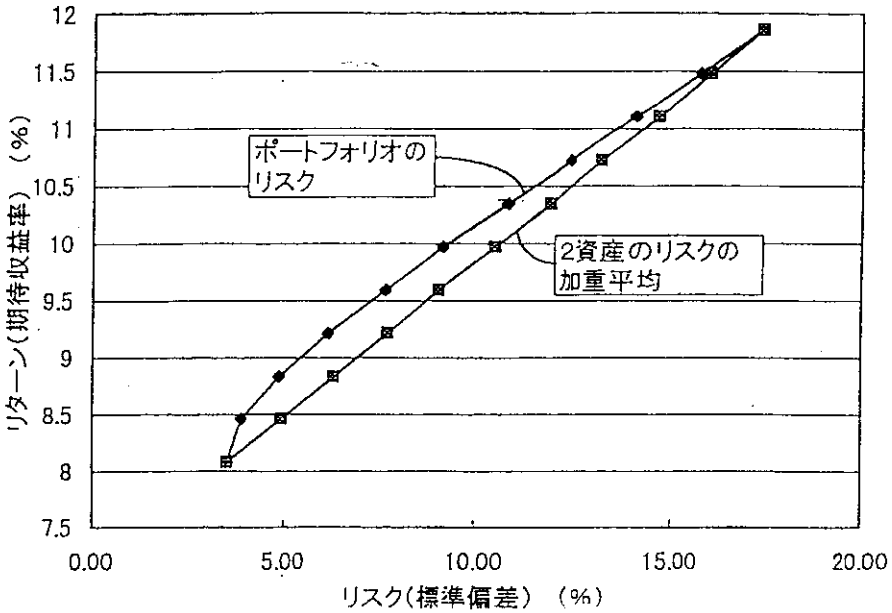
①投資対象資産の分散

各種資産の収益率は、同じ時期に、全く同じ方向に動くということはないため（図表４）、国内債券、国内株式、外貨建資産等、様々な資産に運用対象を分散して投資することにより、資産全体の収益率の変動を小さくし、国内債券だけなど単一の資産で運用する場合よりも、目標とする収益をあげるためのリスクを小さくすることが可能になる。

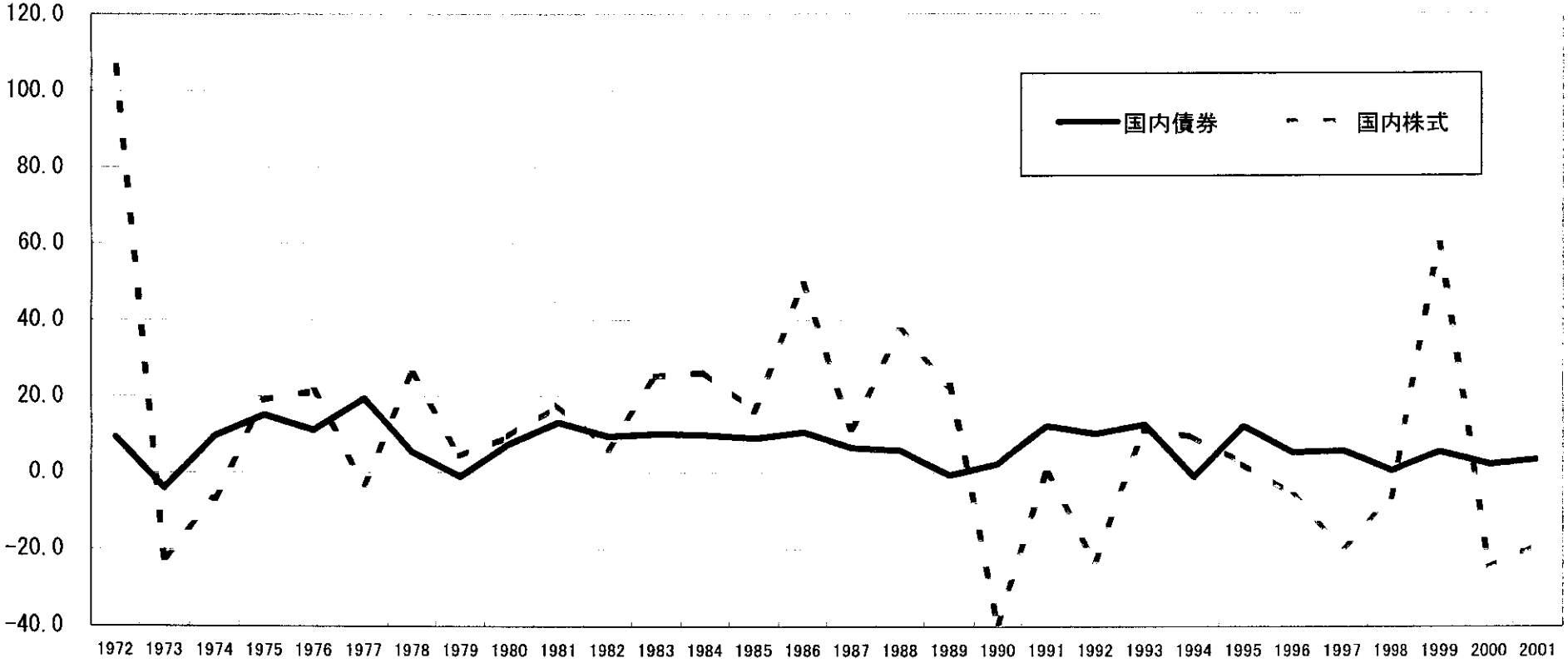
〔図表２　概念図〕



〔図表３　分散投資の効果〕



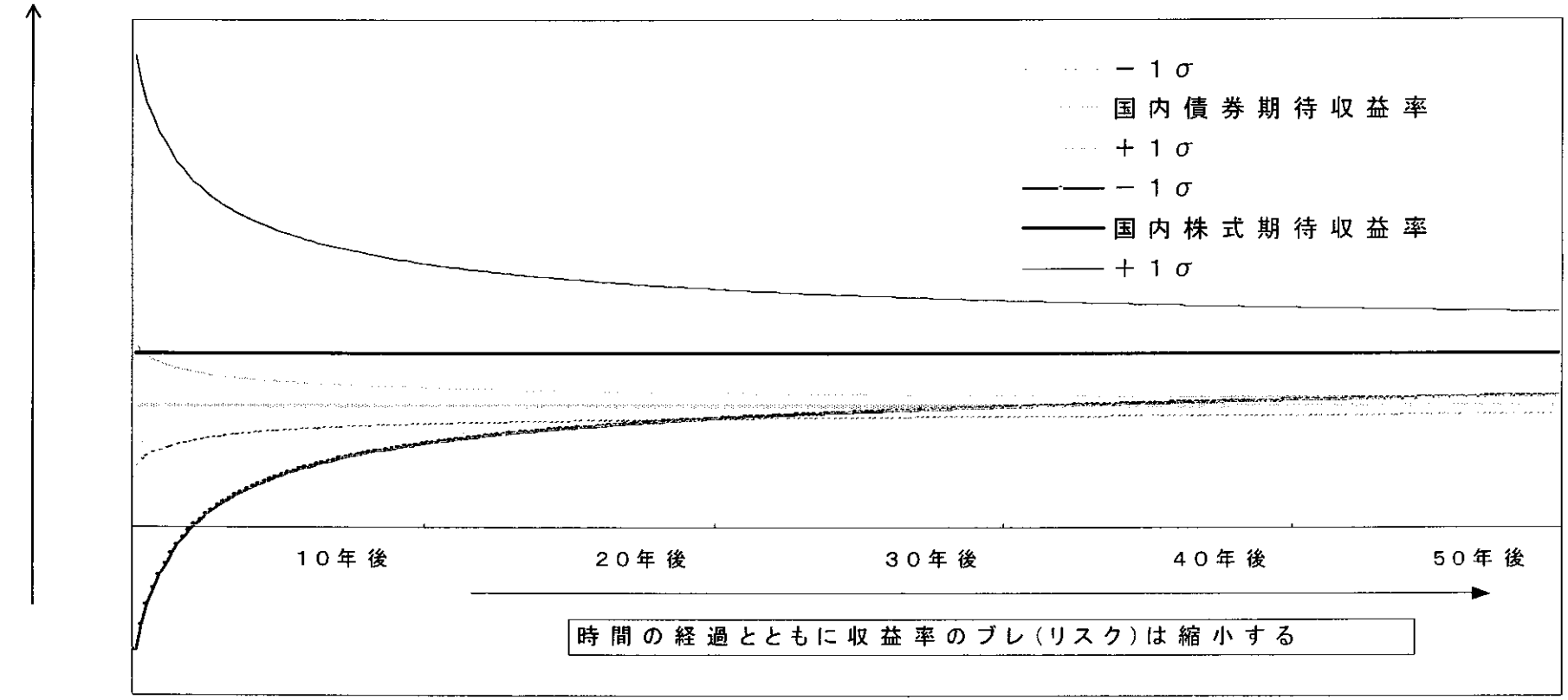
[図表4　債券と株式の収益率の推移]



国内債券：NOMURA-BPI

国内株式：TOPIX（配当込み）

②長期運用

各種資産の収益率は、短期的には変動するものの、運用期間が長くなればなるほど、平均的な収益率に収束していく傾向のため、長期運用を行う方が安定的に収益をあげることが可能となる。

〔図５　長期運用の場合の国内債券と国内株式の収益率（年率）〕（イメージ）